

# 令和3年度事業計画

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

## 1 基本方針

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

今年度は県および甲賀市からの第4期指定管理の1年目にあたる。中期経営計画（第IV期）を基に、誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの積極的な事業展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化のより一層の向上を目指す。

また、コロナ時代の新しい生活様式に対応した事業展開が求められる中で、陶芸の森がより一層、来園者や地域から親しまれ、利用される施設となるよう、新たな取組についても模索する。

さらに、信楽窯業技術試験場（以下「試験場」という。）の移転後を見据え、試験場と連携した陶器産業の振興支援策について検討を進める。

## 2 事業計画

### (1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

#### ア 公園の魅力の向上

人々が自由に憩い楽しめるよう、太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

#### イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより深く知ってもらう陶芸制作講座の開催や、作家が直接販売するマーケット、一般参加型のイベントを開催・誘致するなど、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創る。

### (2) 地元陶器産業の振興に関する事業

#### ア 信楽窯業技術試験場との連携事業

試験場移転記念展「ジャパン・スタイルーやきもの×デザイン×生活」展に併せて、試験場の過去のアーカイブから現在に通用する商品を見出し、再生産に繋げる取組みを3カ年計画で行う。また試験場の研修生に対し、アーティスト・イン・レジデンス（以下「AIR」という。）事業で来館している作家や職員による座学を定期的に行い、アートやデザイン感覚などの向上を図る機会を提供する。

#### イ 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校の各学年に対し陶芸の森で授業を行い、信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して地域での人材育成に努める。

#### ウ 若手陶器産業後継者等への支援事業

令和2年度に引き続き、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」の商品開発等を目的に作品の公募を行う。デザインの優れたモデルについては、賞を授与するとともに陶芸の森がまとまった数を購入してミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売し、若手陶器産業後継者等への支援の一助とする。

### (3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

#### ア 展覧会開催事業

新しい視点を交えながら、多彩な魅力あふれる以下の展覧会を開催し、陶芸文化の向上を図る。また、令和4年度に試験場が陶芸の森隣接地へ移転されることを記念し、陶芸の森との連携強化の一環として、試験場の業績を取り上げた展覧会を開催する。

(ア) 特別展「神業ニッポン 明治のやきもの一幻の横浜焼・東京焼」展

(イ) 特別展「Human and Animal 土に吹き込まれた命 21世紀陶芸の最先端 Part 1 子どもたちとともに」展

(ウ) 特別展「Human and Animal 土に吹き込まれた命 21世紀陶芸の最先端 Part 2 アーティストたちに迫る！」展

(エ) 信楽窯業技術試験場移転記念展「ジャパン・スタイルーやきもの×デザイン×生活」展

(オ) 陶芸館ギャラリー企画

#### イ 創作事業（AIR事業）

国内外からスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れやゲスト・アーティスト（招聘作家）の招聘などを行い、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させる。

また、国内外の類似機関との連携を強化し、陶芸家の派遣も含めた仕組みを文化庁の補助金を活用して継続実施し、陶芸文化について信楽から世界に向け積極的に発信する。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策を十分に講じたうえで、入国制限が解除された国々から受け入れを再開することとし、令和2年度に受入れを延期した作家たちを優先する。

#### ウ 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かし、やきものに関する鑑賞や体験事業を様々な形で展開する。学校との連携プログラムをさらに充実させることで、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーター確保を促進し、次世代の陶芸の森ファン獲得に繋げる。

#### (4) 企画事業

ミュージアムショップを運営し、展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売する。また、インターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

# 収 支 予 算 書

自 令和 3 年 4 月 1 日  
至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	3	3	—	
事業収益	232,736	245,389	△ 12,653	
受取補助金等	1,380	6,200	△ 4,820	
雑収益	1,733	1,733	—	
経常収益計	235,852	253,325	△ 17,473	
(2) 経常費用				
事業費	231,580	255,608	△ 24,028	
管理費	4,272	4,417	△ 145	
経常費用計	235,852	260,025	△ 24,173	
(うち人件費)	97,047	104,930	△ 7,883	
評価損益等調整前当期経常増減額	—	△ 6,700	6,700	
評価損益等計	—	—	—	
当期経常増減額	—	△ 6,700	6,700	
税引前当期一般正味財産増減額	—	△ 6,700	6,700	
法人税、住民税及び事業税	2,000	2,000	—	
当期一般正味財産増減額	△ 2,000	△ 8,700	6,700	
一般正味財産期首残高	132,932	141,632	△ 8,700	
一般正味財産期末残高	130,932	132,932	△ 2,000	
<b>II 指定正味財産増減の部</b>				
受取寄付金	100	100	—	
当期指定正味財産増減額	100	100	—	
指定正味財産期首残高	31,134	31,034	100	
指定正味財産期末残高	31,234	31,134	100	
<b>III 正味財産期末残高</b>	162,166	164,066	△ 1,900	

# 収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 3 年 4 月 1 日  
至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1	-	2	-	3
事業収益	204,544	28,192	-	-	232,736
受取補助金等	1,380	-	-	-	1,380
雑収益	-	1,723	10	-	1,733
経常収益計	205,925	29,915	12	-	235,852
(2) 経常費用					
事業費	213,292	18,288	-	-	231,580
管理費	-	-	4,272	-	4,272
経常費用計	213,292	18,288	4,272	-	235,852
(うち人件費)	92,420	2,499	2,128	-	97,047
評価損益等調整前当期経 常増減額	△ 7,367	11,627	△ 4,260	-	-
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 7,367	11,627	△ 4,260	-	-
他会計振替額	5,645	△ 5,645	-	-	-
税引前当期一般正味財産 増減額	△ 1,722	5,982	△ 4,260	-	-
法人税、住民税及び事業 税	-	2,000	-	-	2,000
当期一般正味財産増減額	△ 1,722	3,982	△ 4,260	-	△ 2,000
一般正味財産期首残高	142,479	32,398	△ 41,945	-	132,932
一般正味財産期末残高	140,757	36,380	△ 46,205	-	130,932
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
受取寄付金	100	-	-	-	100
当期指定正味財産増減額	100	-	-	-	100
指定正味財産期首残高	16,134	-	15,000	-	31,134
指定正味財産期末残高	16,234	-	15,000	-	31,234
<b>III 正味財産期末残高</b>	156,991	36,380	△ 31,205	-	162,166

# 資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

## 1 資金調達の見込みについて

なし

## 2 設備投資の見込みについて

なし

# 令和2年度事業報告

公益財団法人 滋賀県陶芸の森

## 1 事業概要

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり重要な産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和2年度においては、県および甲賀市からの第3期指定管理の最終年度として引き続き施設の適切な運営管理に努め、次期指定管理者の指定獲得に向けて取り組んだ結果、当財団が指定されることとなった。

併せて、陶芸の森開設30年目となる節目として、様々な記念事業を計画していたが、年度当初より新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、閉館や事業の延期等を余儀なくされるとともに、実施事業にあっても、規模や実施方法を見直さざるを得ない状況となった。こうした状況を踏まえ、展覧会や屋外展示作品の3D撮影によるバーチャルミュージアムの開設や、Web会議方式による「薪窯を語る会」の実施など、コロナ時代の生活様式に対応した新たな取り組みについても試みたところである。

また、信楽窯業技術試験場の令和4年度の隣接移転を見据え、試験場と連携を深める検討会を立ち上げ、両者の強みを活かした陶器産業の振興支援策などを進めることとした。

## 2 事業実績

### (1) 県民に親しまれる施設運営に関する事業

#### ア 公園の魅力の向上

人々が自由に憩い楽しめるよう、太陽の広場や星の広場などの公園機能の充実を図り、来園者に対して快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

#### イ 地域の観光拠点としての集客促進事業

陶芸の森の地域資源を活かしながら、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを開催した。

### (2) 地元陶器産業の振興に関する事業

#### ア 信楽焼の伝統技術の継承

人材育成事業として、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成に努めた。

#### イ デザインコンペ

ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売することを目的に作品公募を行い、すぐれた作品に賞を授与した。

### (3) 陶芸文化の向上と交流に資する事業

#### ア 展覧会開催事業

年間を通じて下記の4つの展覧会事業とギャラリースペースを活用した陶芸館独自の企画展を行った。

(ア) 特別展「リサ・ラーソンー創作と出会いをめぐる旅」展

(イ) 特別企画「湖国・滋賀の陶芸ー風土と伝統そして交流のなかで」展

(ウ) 特別展「奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色」展

(エ) 特別展「神業ニッポン 明治のやきもの一幻の横浜焼・東京焼」展

(オ) 陶芸館ギャラリー企画

イ 創作事業（AIR事業）

国内外からのスタジオ・アーティスト（研修作家）の受入れや、ゲスト・アーティスト（招聘作家）の招聘などを行うことによって、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代トレンドとの交流を活発化させた。なお、4月から6月にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、新規の作家募集を延期し前年度に滞在していた作家を継続して受入れる形で運営を行った。また、6月から順次受入れを再開した。

ウ 子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を生かした、やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を「つちっこプログラム」として提供し、将来にわたる陶芸の森ファンの獲得に努めた。なお新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童生徒間で水入れや筆などの道具を共用させない、デモンストレーションは小人数単位で実施するといった対策を講じて事業を実施した。

(4) 企画事業

ミュージアムショップを運営し、展覧会関連商品、オリジナル商品、陶芸関係書籍を販売した。また、インターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努めた。

# 正味財産増減計算書

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,001	3,000	1
特定資産運用益	5,741	6,724	△ 983
事業収益	246,504,039	246,627,761	△ 123,722
受取補助金等	7,690,000	1,500,000	6,190,000
雑収益	913,111	1,825,591	△ 912,480
経常収益計	255,115,892	249,963,076	5,152,816
(2) 経常費用			
事業費	249,706,592	243,104,106	6,602,486
管理費	3,886,780	3,964,795	△ 78,015
経常費用計	253,593,372	247,068,901	6,524,471
(うち人件費)	100,859,743	98,401,467	2,458,276
評価損益等調整前当期経常増減額	1,522,520	2,894,175	△ 1,371,655
評価損益等計	—	—	—
当期経常増減額	1,522,520	2,894,175	△ 1,371,655
税引前当期一般正味財産増減額	1,522,520	2,894,175	△ 1,371,655
法人税、住民税及び事業税	1,354,500	1,712,200	△ 357,700
当期一般正味財産増減額	168,020	1,181,975	△ 1,013,955
一般正味財産期首残高	176,292,801	175,110,826	1,181,975
一般正味財産期末残高	176,460,821	176,292,801	168,020
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
特定資産運用益	7	6	1
受取寄付金	10,000	100,000	△ 90,000
当期指定正味財産増減額	10,007	100,006	△ 89,999
指定正味財産期首残高	30,983,171	30,883,165	100,006
指定正味財産期末残高	30,993,178	30,983,171	10,007
<b>III 正味財産期末残高</b>	207,453,999	207,275,972	178,027



# 正味財産増減計算書内訳表

自 令和 2 年 4 月 1 日

至 令和 3 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等 会 計	法人会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	1,500	—	1,501	—	3,001
特定資産運用益	—	—	5,741	—	5,741
事業収益	203,962,181	42,541,858	—	—	246,504,039
受取補助金等	6,630,000	1,060,000	—	—	7,690,000
雑収益	—	912,475	636	—	913,111
経常収益計	210,593,681	44,514,333	7,878	—	255,115,892
(2) 経常費用					
事業費	215,357,304	34,349,288	—	—	249,706,592
管理費	—	—	3,886,780	—	3,886,780
経常費用計	215,357,304	34,349,288	3,886,780	—	253,593,372
(うち人件費)	96,353,734	2,457,769	2,048,240	—	100,859,743
評価損益等調整前当期経 常増減額	△ 4,763,623	10,165,045	△ 3,878,902	—	1,522,520
評価損益等計	—	—	—	—	—
当期経常増減額	△ 4,763,623	10,165,045	△ 3,878,902	—	1,522,520
他会計振替額	4,815,193	△ 4,815,193	—	—	—
税引前当期一般正味財産 増減額	51,570	5,349,852	△ 3,878,902	—	1,522,520
法人税、住民税及び事業 税	—	1,354,500	—	—	1,354,500
当期一般正味財産増減額	51,570	3,995,352	△ 3,878,902	—	168,020
一般正味財産期首残高	164,016,098	43,245,018	△30,968,315	—	176,292,801
一般正味財産期末残高	164,067,668	47,240,370	△34,847,217	—	176,460,821
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
特定資産運用益	7	—	—	—	7
受取寄付金	10,000	—	—	—	10,000
当期指定正味財産増減額	10,007	—	—	—	10,007
指定正味財産期首残高	15,983,171	—	15,000,000	—	30,983,171
指定正味財産期末残高	15,993,178	—	15,000,000	—	30,993,178
<b>III 正味財産期末残高</b>	180,060,846	47,240,370	△19,847,217	—	207,453,999

# 貸 借 対 照 表

令和 3 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金預金	23,717,100	25,307,299	△ 1,590,199
未収金	1,472,215	5,996,526	△ 4,524,311
貯蔵品(販売品)	1,810,320	1,462,142	348,178
流動資産合計	26,999,635	32,765,967	△ 5,766,332
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引当資産	30,000,000	30,000,000	—
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	—
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	64,612,262	70,224,521	△ 5,612,259
売店改修積立資産	1,400,000	1,400,000	—
資産購入積立資産	5,028,117	4,743,402	284,715
記念事業等積立資産	4,000,000	4,000,000	—
やきもの振興基金積立資産	993,178	983,171	10,007
特定資産合計	76,033,557	81,351,094	△ 5,317,537
(3) その他固定資産			
車両運搬具	359,729	539,322	△ 179,593
什器備品	289,955	395,077	△ 105,122
電話加入権	12,000	12,000	—
陶芸作品	152,577,000	152,577,000	—
その他固定資産合計	153,238,684	153,523,399	△ 284,715
固定資産合計	259,272,241	264,874,493	△ 5,602,252
資産合計	286,271,876	297,640,460	△ 11,368,584
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	12,851,115	14,942,767	△ 2,091,652
未払法人税等	1,354,500	1,712,200	△ 357,700
未払消費税等	0	3,485,000	△ 3,485,000
流動負債合計	14,205,615	20,139,967	△ 5,934,352
2 固定負債			
退職給付引当金	64,612,262	70,224,521	△ 5,612,259
固定負債合計	64,612,262	70,224,521	△ 5,612,259
負債合計	78,817,877	90,364,488	△ 11,546,611

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
<b>Ⅲ 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
県 補 助 金	25,000,000	25,000,000	—
市 補 助 金	5,000,000	5,000,000	—
寄 付 金	993,178	983,171	10,007
指定正味財産合計	30,993,178	30,983,171	10,007
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(—)
(うち特定資産への充当額)	(993,178)	(983,171)	(10,007)
2 一般正味財産	176,460,821	176,292,801	168,020
(うち特定資産への充当額)	(10,428,117)	(9,460,611)	(967,506)
正味財産合計	207,453,999	207,275,972	178,027
負債及び正味財産合計	286,271,876	297,640,460	△ 11,368,584